

# 「レントゲン手帳」試行報告を読んで

国立身体障害者リハビリテーションセンター  
画像診断棟 前野正登

日本放射線技師会医療被ばく対策委員会は、日本放射線技師会雑誌のJART4月号に仮称「レントゲン手帳」試行報告を掲載した。個人的には大変興味のある内容であるために、早速拝読させて頂いた。残念ながら報告内容については、あまりにも多くの疑問点、内容の不備、強引な結論づけがあり、これらの記述はあたかも科学的な調査分析をしているかのように報告しているが、権威ある社団法人としては極めて未熟で稚拙であり、社会に誤解を招きかねない。

過去に社団法人日本放射線技師会は「論文発表のための統計学入門」の特集の連載を企画し、会員の意識向上を図ったように思えるが、技師会自らがこのような調査結果を報告したことについては大変遺憾であり、執行部・委員会・編集する出版社の質を疑わざるを得ない。以下に問題点を指摘させていただく。

## 1. 実施事項について

「試行参加施設にポスター5枚、手帳200部を送付する。」としているが、試行施設分析の参加施設の表(p85の試行参加施設)では、ポスターが5枚から20枚と施設間にバラツキがあることを示している。これでは、施設間のバランスに欠けていると考える。

## 2. 利用者アンケート分析について

Juniorを0~29歳、Adultを30~59歳、Seniorを60歳以上の3群に分けているが、この分類の仕方は社会に認知された分類であるか。

## 3. 利用者アンケート分析について

Junior 0~29歳 Adult 30~59歳代 Senior 60歳以上の3群に分けているが、医療被ばくのリスクを考えるならば、もっと年代を細かく区別(たとえば、10歳ごとに)すべきであると考え。また、10歳代ごとのアンケートの結果状況についても回答すべきである。

## 4. 利用者アンケート分析について

アンケートの回答者の約5%が0~29歳、約30%が0~29歳、約62%が60歳以上であるが、アンケートの60歳以上が6割以上を占め、明らかに年齢分布の偏りが発生していると考え。

## 5. 利用者アンケート分析について

基本的なミスを挙げる。群別の合計は201名である。しかし、不詳の男性1名と女性2名を加算すると204名になる。

## 6. 利用者アンケート分析について

年齢の分け方の中に不詳の男性1名と女性2名しているが、その次に年齢不詳の項目を立てているが、両者は同一項目に入ると考える。

## 7. 利用者アンケート分析について

それぞれのアンケート項目に回答数の合計のバラツキが見られる。無回答であるならば、無回答として項目を立てる必要があり、それぞれの分析を試みる必要があると考える。

## 8. 試行施設分析について

対象施設が12施設中、実施施設が11施設、回答施設が6施設になっているが、あまりにも対象施設が少ないために、アンケートの内容の信憑性について問題があり、たった6施設でアンケートの分析を行い結論づけるには、あまにも無理があると考え。

## 9. 試行施設分析について

この表の試行参加施設は対象施設であり、分析する前に提示すべきと考える。

10 . 試行施設分析について

対象施設、実施施設、回答施設のそれぞれの施設名を回答すべきである。

11 . 試行施設分析について

回答施設が6施設とあるが、表からは9施設が回答しているように思う。

12 . 試行施設分析について

各施設に送付した手帳の数は200部であるにも関わらず、患者に配布した数では半分以上が2施設、半分弱が2施設、ほとんど配布できなかった施設が大多数を占めている状況について報告する必要があると考える。

13 . 最後について

「手帳の使用動機が積極的に伺える」としているが、意見では「不安がある」やポスターを見たからといって積極的に使用したいと結びつけることには無理があると考ええる。

14 . 最後について

サイズについて「診察券」、「カードサイズ」、「ICカード」等と試行内容とかけはなれた内容がある。これらの意見は少し小さいばかりではなく、もっと軽くそして、もっと機能的にしてほしいと受け止められる。よって手帳システムはそぐわない意見としてい

15 . 最後について

患者からの意見の6についての考察が何等されていない。

16 . 最後について

利用施設6施設で結論づけるには無理があると考ええる。

17 . 最後について

課題に関しても前に示したように、あまりにも多くの不備を踏まえたとき、結びつけるには無理があると考ええる。

18 . はじめについて

報告の目的は「国民に対して医療放射線の正しい知識の普及と医療被ばく問題に正しい理解を得ること」としている。しかし、この報告のどこに「正しい知識の普及と被ばく問題の正しい理解」に関しての内容が記述されているのか、まったく垣間見られない。

19 . 報告の構成について

利用者アンケート分析の項目が1と2は明朝体であり、3以下はゴシック体となっている。そして、最後には基本的に「患者からの意見」と「施設の意見」と「運用に関する課題」の3つの構成になっているが、項目の不備や書体に変化等がなく読みにくい構成になっていると考える。また項目では、全てが明朝体となっており、全体的な文章構成の稚拙さが伺える。この報告には、「考察およびまとめ」が無い。あえて推察するならば、最後の運用課題についての内容が「考察およびまとめ」に値する部分と思われるが、今回のアンケートから結論づけるには統計的な見地がまったく伺えられず無理があると考ええる。統計から見られる事実とは何か、改めて考えて頂きたい。

科学的論文を日常的に目にする技師ならば、この報告の不備と不確かさを読み取る事ができるはずである。日本放射線技師会の査読体制の質が問われる問題である。このような、未熟な報告を強引に押し通すならば、日本放射線技師会の会員が報告する科学的論文の質さえも問われると考える。